

2023年度 共同生活援助 事業報告書

(若葉ハウス・秋篠ハウス・高山ハウス)

グループホーム主任 山本一等

(施設の運営状況について)

・若葉ハウス(女性) 定員 5人 利用者5人満床	延べ利用日数 1415 日 <u>1人当たりの年間平均利用日数約 283 日</u>
・秋篠ハウス(男性) 定員 5人 利用者4人	延べ利用日数 1013 日 <u>1人当たりの年間平均利用日数約 253 日</u>
・高山ハウス(女性) 定員 6人 利用者6人満床	延べ利用日数 1607 日 <u>1人当たりの年間平均利用日数約 268 日</u>

4月より秋篠ハウスに男性2名、高山ハウスに女性1名の常勤職員を配置し、支援の質の向上や連携する機関との情報共有を中心に取り組んだ。また、各グループホームにパソコンの設置や Wi-Fi 環境を充実させ、各ホームでも事務作業に取り組める設備を整えた。

中でも常勤職員の存在は大きく、グループホーム職員の中心として支援や検討課題に取り組み、時にはグループホーム職員や利用者からの声を聴き、コーディネート役としての業務にあたってくれた。特に支援に関しても、絵カードやイラストなどを使った視覚支援等の専門的な事柄も取り入れ、利用者とのコミュニケーションを円滑に進めていった。

また、2か月に一度の「奈良市グループホーム会議」にも参加し、他事業所との連携、相談やアドバイスを頂く機会となっている。10月には数年ぶりの「奈良市グループホーム運動会」が開催され、若葉ハウス、高山ハウスから計5名の利用者が参加した。

新型コロナウイルス感染症は5類に移行したものの、年間を通して数回利用者や職員の感染、宿泊キャンセル等があり、宿泊職員の配置の変更や感染予防などチーム支援での対応に追われた。ただ、コロナ感染時の対応も役割を分担し職員、ご家庭への連絡を迅速に行い、感染拡大防止に努め、クラスター感染を防ぐことができた。

9月には秋篠ハウスを利用していた利用者1人が、他のグループホームに引っ越して退所された。その空き室に翌月より新規利用者が体験入居されることとなり、事前に新規利用者に関しての情報共有を行い、1月より契約をして本利用に至っている。昨年から退所や新規の利用が続いているが、他の利用者は大きな変化や影響なく過ごしている。

●まとめ

今年度の状況からみて、安定した運営を実施するためには、利用日数の増加が条件となる。そのためには、本人及びご家族への宿泊の誘い掛けが必要となる。また、ゆとりある職員の配置が安全と安心のサービスにつながると思う。ご家族や本人にも安心して宿泊してもらえる環境作りに努めていくためにもより一層、職員の連携の強化や支援の質の向上を目標に、各グループホームで定期的に会議を行う。その中で情報の共有や報告、連絡、相談の場を設け、職員一人ひとりの思いを受け止め、職員自身のスキルアップや気づきに繋がり、より質の高い支援に結び付ける。